

(2) 漁具仕様

表205 仕様表

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(イ)	道糸サルカン	ナイロンテグス	80～100号, ビシ付き5kg/50m 200m	11	
(イ)	幹 糸	ナイロンテグス	30～40号 3～4 m	21～41	
(ニ)	三又サルカン			20～40	
(ホ)	枝 糸	ナイロンテグス	12～14号 0.6～1 m	20～40	
(ハ)	擬 餌	合成樹脂	シーバイト3.5号 (ヨーヅリ製)	20～40	イカを模したもので, 青色系がよく使われる。
(ト)	タ コ 鉛	鉛	1 匁 円錐形で中通し	20～40	擬似餌のイカの胴部に入れる。
(チ)	釣 元	ナイロン	2 mm 2子撚り 3～4 cm	20～40	釣針と枝糸の間に入れる。
(リ)	釣 針	鋼	ハモ22号	20～40	ひき縄14～16号の場合もある。
(ス)	潜 航 板	プラスチック	8～9号	1	

2) 漁 法

操業は大潮時に行う。

曳航は潮向かいで4ノット程度で行い, 潜航板が海底すれすれにくるように仕掛けを調節する。

揚縄は主に手繰りで行うが機械揚げもある。

3) 使用漁船および乗組員

2～3トン, 20～40馬力, 1人乗組み。

4) 漁期・漁場

漁期は1～2月で, 漁場は布津沖～南有馬沖の水深20～50mの底質が貝殻混じり砂地の海域である。

5) 漁獲物

ブリ, スズキなど。

6) その他

漁場水深が5～10mの浅場では1.5kgの錘を使うこともある。

4) 立縄漁具

206 アマダイ樽流 <平成13年>

調査地 峰町志越

沿革 平成9年(1997年)頃, 上対馬町南部漁協の漁業者が小値賀から導入した。平成13年(2001年), 志越7, 佐賀1統着業。

1) 漁 具

(1) 見取図および一般構成

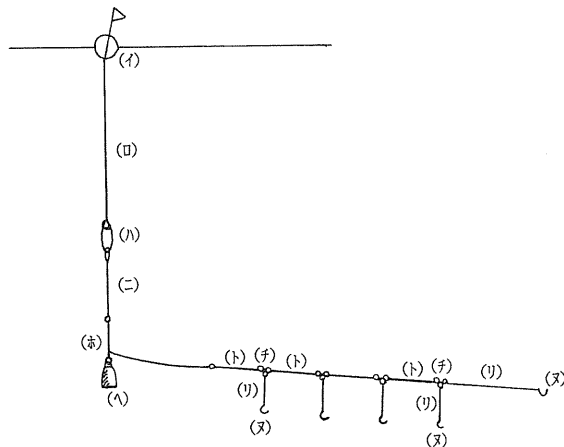


図206 一般構成

(2) 漁具仕様

表206 仕様表 (1セット分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(イ)	浮標	発泡スチロール	旗竿付き	1	
(ロ)	道糸	ナイロン組紐	ミチロン40号 水深と同長	1	錘が海底についた状態で流す
(ハ)	ブランチハンガー	ステンレス		1	
(ニ)	道糸	フロロカーボン	30号 2.2m	1	
(ホ)	テンビン	ステンレス	片テンビン 枝長さ70cm	1	既製品のテンビン以外に、ステンレス線2mを2つ折にしたもので自作する場合もある。
(ヘ)	錘	鉛	180~200匁	1	
(ト)	幹糸	フロロカーボン	10号 1.0m	4	
(チ)	三又サルカン			4	
(リ)	枝糸	フロロカーボン	7号 0.3m	4	最後尾の枝糸のみ1~1.5m
(ヌ)	釣針	鋼	ムツ針 13号	5	

2) 漁法

1セット5本針を10セット使用し、午前7時~午後6時30分の操業時間中、約30分おきに魚のかかり具合をチェックしながら仕掛けを流し、計10~12回それぞれのタルを入れ直す。

餌は短冊に切った冷凍スルメイカ(古いほど良)を使用する。塩漬けを使う人もいる。

3) 使用漁船および乗組員

7.0トン、120馬力。

4) 漁期・漁場

漁場は志越~琴の沖合3~4マイルの水深70~90mの砂泥地である。

5) 漁獲物

アマダイ主体 (~1.4kg)。

ほかキダイ、メバル、マトウダイなど。

207 イカ樽流 <平成13年>

調査地 平戸市平戸

沿革 昭和62~63年(1987~1988年)頃、玄界灘にイカ釣りに行った時に福岡の漁業者に教わった。平成13年(2001年)現在、約20隻着業。

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

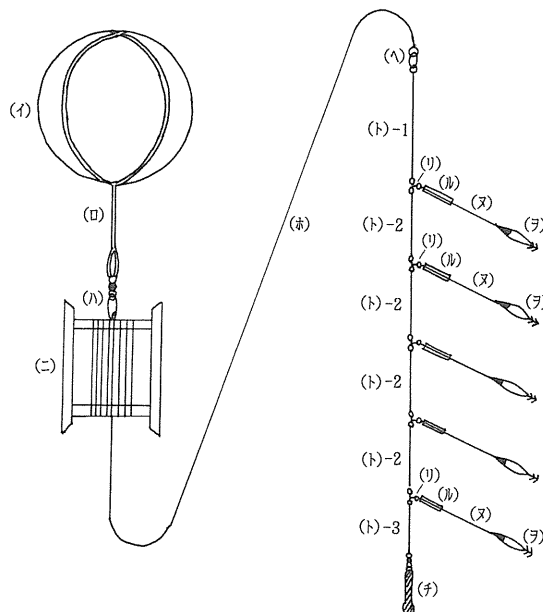


図207 一般構成

## (2) 漁具仕様

表207 仕様表 (1セット分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(イ)	浮標	発泡スチロール	大玉球形	1	蛍光ピンク、赤色に着色。タコ網(みかん網)をかぶせ、傷つきや色落ちを防ぐ。
(ロ)	浮標綱	クレモナ	5mm 0.40m	1	浮標に十字にかけ回し固定する。
(ハ)	ランチハンガー	ステンレス		1	糸巻き固定用
(ニ)	糸巻き	木		1	
(ホ)	道糸	ナイロン組紐	ミチロン30~50号 水深以上	1	
(ヘ)	ベアリングスィール	ステンレス	ラインローラーで止まるサイズ	1	
(ト) 1	幹糸 1	ナイロンテグス	10~12号 2.25m	1	胴つき仕掛けの一番上
(ト) 2	幹糸 2	ナイロンテグス	10~12号 1.50m	4	胴つき仕掛けの枝の間
(ト) 3	幹糸 3	ナイロンテグス	10~12号 0.75m	1	胴つき仕掛けの一番下、錘の上
(チ)	錘	鉛	150~200匁	1	
(リ)	三又サルカン	鉄		5	
(ヌ)	枝糸	フロロカーボン	6号 0.30m	5	
(ル)	絡み止め	ナイロンチューブ	φ2mm 4cm	5	枝の三又サルカン側
(レ)	浮スツテ	合成樹脂	5号、綿入り布巻き、頭部は赤またはピンクで胴部は白	5	補修は自分で行う。布の縫い合わせは水中で廻らないよう直線状にする。

## 2) 漁法

1 操業で15~20セット使用し、操業は夜明けから夕方まで行う。

まず、こぼれ瀬を探し魚探反応をみてから操業場所を決め、漁具の間隔が50m前後になるよう、潮流を横切って投入していく。漁具は着底後3~4.5m上げ、浮標に取り付ける。流している途中は海底の状況に合わせて漁具の高さを調節する。

漁具を入れ終わると最初に投入した漁具のところに戻って、仕掛けにイカが掛かっているか手応えで確認する。イカが掛かっているれば漁具を揚げ、イカを取り込んでその場で漁具を再投入し、次の漁具について同様に繰り返す。イカが掛かってなければ、漁具を揚げずにそのまま流す。漁具を流す距離は漁場の広がりに応じて変化し、長い時は5~6マイル流すこともある。

## 3) 使用漁船および乗組員

5トン未満、1~2人乗り(1人乗りが多い)。

## 4) 漁期・漁場

漁期は、周年行う人もいるが主に1~8月で、盛漁期は5~6月である。

漁場は1~3月は生月西沖からの山大島西沖の水深60~80mの海域、4~8月は二神島西沖の水深100m程度の海域で、どちらも底質が砂地でさらに瀬際がよい。

## 5) 漁獲物

主にケンサキイカ、ほかにヒラメ、マダイ、アオハタ(アオナ)等。

## 6) その他

浮きスツテを覆う部分は柔らかい方がよい。

大潮の期間がよく釣れる。また潮が動かないと釣れない。

## 208 ダルマ(メダイ)樽流 &lt;平成13年&gt;

調査地 平戸市津吉

沿革 平成3~4年(1991~1992年)頃から始まったようである。平成13年(2001年)で50続ほど着業。

1) 漁 具

(1) 見取図および一般構成

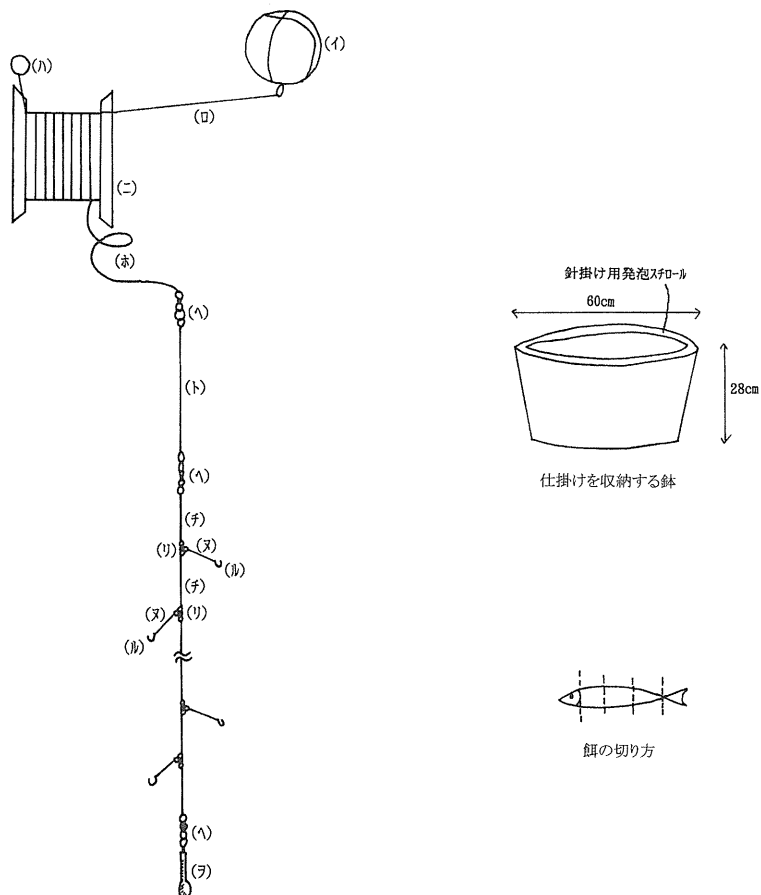


図208 一般構成

表208 仕様表 (1セット分)

符号	名 称	材 質	規格・寸法	数量	備 考
(イ)	浮 標	発泡スチロール	直径30cm	1	蛍光ピンクに塗装する。
(ロ)	浮 標 綱	ポリ	6mm 1m	1	
(ハ)	浮 子	合成樹脂	ビニーを削ったもの	1	魚が掛かったとき沈むように調節して削る。
(ニ)	糸 巻 き	木		1	
(ホ)	道 糸	ハイゼックス	50番	1	
(ヘ)	スナップサルカン	ステンレス		3	
(ト)	ク ッ シ ョ ン	ゴム	φ3.5mm×4.0m	1	
(チ)	幹 糸	ナイロン	24号 1.50~2.25m	20~30	大型が数尾ずつ釣れる場合は枝の本数を少なくする。(10~15本)
(リ)	三又サルカン	シンチュウ		20~30	
(ル)	枝 糸	ナイロン	26号 0.75m	20~30	
(レ)	釣 針	鋼	タイ釣 (丸型) 17号	20~30	
(ワ)	錘	鉛	250~300号	1	

2) 漁 法

タル流しは魚の釣れ具合がいいときに行い、漁具を2セット使って操業する。

餌は冷凍イワシの頭と尾鰭を除いて3片にブツ切りしたものを使用する。操業時間については昼釣りの場合(1~3月)は日の出~日没で、夜釣りの場合(9~12月)は日の出の3時間前~夜明け直前である。4月(クラゲが見え始める頃)~6月は釣れない。また潮が流れないと釣れない。

まず魚探でメダイの反応を探す。メダイの魚群は魚探上で点状に表れ、海底付近から40~50mの高さで見られることがある。

魚群を確認したら漁具を魚探反応の潮上側に投入し、潮流に乗せて漁具を流す。船はスパンカーを使う。投入

前に漁具が根掛りしないよう、錘の位置が沈船や瀬の頂上より少し上になる程度に道糸の長さを調節しておく。魚が掛かったらドラグ機構付き電動ラインホーラー（ダルマまき）で道糸を巻き上げる。漁具が魚群反応の上を通り過ぎたら、潮上側に漁具を戻しこれを繰り返して操業する。

3) 使用漁船および乗組員

10トン未満（5トン未満は少ない）、1～2人乗組み。

4) 漁期・漁場

漁期は8月～翌年3月で盛漁期は9～12月である。

漁場は主に対馬南沖～五島西沖だが、玄界灘の沖ノ島周辺で操業する人もいる。底質等については水深120～160mの海域の主に沈船で、瀬でも操業する。

5) 漁獲物

主にメダイ（地方名ダルマ）、たまにヒラマサ（2～3kg）が漁獲される。